

情報公開文書

1. 研究名称

「肺腺癌における、腫瘍内遊離癌細胞群が予後に及ぼす影響について」

2. 研究目的

肺癌は近年増加傾向にあり、我が国における癌死の第一位となっています。肺癌の診断は、病理専門医が顕微鏡で癌細胞を観察することによって行います。肺癌はその形態によって腺癌、扁平上皮癌、小細胞癌などの組織型に分類され、それにより治療方法や予後が変わってきます。また、組織型の他にも、癌の大きさ、血管やリンパ管内へ浸潤しているかどうか、リンパ節へ転移しているかどうか、などといった様々な因子が重要になります。

近年の研究において、微小乳頭状構造を示す早期癌の予後が不良であるということが報告され、肺癌の世界的な分類に新たに加えられました。今回私達は、組織型の新たな因子として、肺癌細胞内に遊離した細胞「Detached-cell」が予後に与える影響について検討したいと考えています。京都大学医学部附属病院では1年間に200例以上の肺癌手術を行っており、切除された肺癌組織でこれらの細胞を同定し、再発や予後との関連を調べることで、今後の治療に役立たせることが今回の研究の目的となります。

3. 研究対象

本研究の対象となる患者さんは、当院にて2001年から2016年までに肺癌の外科的切除を受けられた方です。患者さんのデータは通常に診療を受けていただく際に記録されるデータであり、また病理データはすでに切除後の組織を用いて検査を行いますので、特別に患者さんに御負担いただいて収集するものはございません。また、過去の診療記録から得られた資料を用いますので、同意書は頂きませんが、患者さんの情報は匿名化され、プライバシーは保護されております。この研究で得られた結果は、専門の学会や学術集会に発表されることがありますが、患者さん個人に関する情報が外部に公表されることは一切ございません。

本研究は倫理審査委員会の審査を受け、研究機関の長の許可を受けております。本研究に対してご質問のある方、研究資料の入手・閲覧を希望される方、解析結果についてお知りになりたい方、手術を受けられた方が未成年の場合や意思疎通が十分にできない方の場合で、保護者もしくは関係者でご質問のある方、もしくはご自身のデータを利用されたくない方は下記の連絡先にもつでもお申し出ください。他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲で研究に関する資料の譲渡、公開をいたします。なお、もし研究協力を拒まれたとしても患者さんに不利益は一切生じませんのでご安心ください。

データ利用の目的と趣旨をご理解いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

4. 利用する試料：臨床因子（年齢、性別、喫煙歴など）、病理学的因子（組織型、脈管侵襲、胸膜侵襲など）、背景肺の状態、放射線画像、遺伝子異常など

5. 研究期間：承認日より2020年9月7日

4. 研究連絡先等：

研究機関名称：京都大学医学部附属病院 病理診断科

対応窓口，研究責任者：吉澤明彦

研究連絡先：

京都大学医学部附属病院 病理診断科 075-751-3488 akyoshi@kuhp.kyoto-u.ac.jp

京都大学医学部附属病院 相談支援センター 075-751-4748 ctsodan@kuhp.kyoto-u.ac.jp